

国語 第5学年 伝記を読んで感想文を書こう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。成功の経歴の列挙にとどめず、どの経験や判断に心を動かされたかを本文で確かめる。C(1)オ・C(1)カの学習として、伝記の感想文。選んだ出来事、人物の判断、本文の根拠、自分が考えたこと、友達との見方の違いを記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：伝記の感想文を残す。選んだ出来事、人物の判断、本文の根拠、自分が考えたこと、友達との見方の違いを記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：年表の要約だけで感想になる。偉人だから全て正しいと考える。未確認の逸話を加える。これについて、伝記に書かれた事実、自分が想像した思い、自分の経験を分ける。別の伝記を参照する場合は出典を添え、食い違いは確認する。人物への尊敬を強制しない。〔知識及び技能〕(3)オとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：伝記の感想文は紙に記録できる。選んだ出来事、人物の判断、本文の根拠、自分が考えたこと、友達との見方の違いを記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：伝記の主人公を目標にさせるのか。

返し：C(1)オ・カと〔知識及び技能〕(3)オでは読書による考えの広がりを見る。同じ職業や生き方を望むことでなく、内容を基に自分の考えをもったかを扱う。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

